

二〇〇二年 しずおか

連詩の会

「ひらがなカタカナ」の巻

創作 二〇〇二年十月十四日 木下十六日 土 本テルセンチュリー静岡
発表 二〇〇二年十一月十七日 日「グランシップ」土 階会議ホール・風

最近、インターネットなどで連詩を楽しむ人が多くなつたせいか、グランシップで開かれた作品発表会は、満員という盛況ぶり。また、新たな試みが盛り込まれた今回は、例年とは少し趣の違う会にもなつた。

まず、海外からのゲストとして迎えたアーサー・ビナード氏はアメリカ生まれ、英語を母国語としながらも、日本に住み、日本語で考え、日本語で詩を書くというユニークな詩人。翻訳者を介することなく、全員が日本語で創作したのは、実は今回が初めてである。さて、そのビナード氏は三〇代半ば、迎え撃つ大岡、谷川、白石各氏は七〇代と、世代に大きな開きがあるのも、今回の特長のつである。結果、若き詩人と老練な詩人との合作ならではの連なりが、作品に新鮮な風を呼ぶこととなった。

さらに谷川氏の長男、谷川賢作氏が、完成したばかりの連詩に寄せて、詩人と作品のイメージから創作音楽を披露。ジャズあり、ワルツあり、ブルースありの音世界は、詩世界をさらに広げ、聴衆は心豊かなひとときを楽しんだ。

さて、連詩タイトルは、木坂涼氏の発句から大岡氏が命名。ゲストであり、木坂氏の夫でもあるビナード氏も最初は、「あいつえお」から学んだこと、文字が読める喜びを、木坂氏は第一編の五行に託した。

会の終わり、連詩初体験の白石氏は、緊張感が心地いい」と言い、

**国を越え、世代を超えて、
文字の楽しみ、言葉の輝きを共有する
詩人たち。そして、今年の四十編。**

ビナード氏は、日本語のアイデアが豊かになつたと語つた。つては次ページから始まる作品を読み、味わうことで、詩人たちが感じた楽しさの一片でも共有していただければと思つた。



連

詩とは、連句や連歌の美学をベースにした創作現代詩で、毎年さばき手を担う大岡氏は、その提唱者であり、第一人者。決まった形式はないが、会では五行と三行の詩を交互に繰り返すフォームを採用。各詩にはさまざまな視点、モチーフが織り込まれ、そうした前の詩を受け、別の詩人が後の詩を創作し、繋いでいく。完成翌日の発表会では、創作者による朗読のほか、そうした繋がりを解くための解説が行われ、以下はその抜粋である。

「あいうえおかきくけこ」から広がる世界。
言の葉の道場に集う詩人たち。

【第一編】第五編の解説

涼…英語を母国語とするアーサーがゲストということで、「日本語」に焦点を合わせようと、第一番を作りました。二〇歳を過ぎて「あいうえお」を学んだ彼ですが、そういえば私たちも小さい頃、同じように「あいうえお」を習ったなあと思っただけです。

俊太郎…最初の詩は、普通、遠来のゲストへの挨拶になるのだけれど、木坂さんは「言葉」で来た。そこで連詩を巻く詩人を挨拶代わりに入れようと。お気づきだと思いますが、三行の中に全員の名前を入れました。アーサーだけは困って「朝」にしたんですが。(笑)

かずこ…私はいつも道場に向かう僧侶の気持ちを持っていたいと思っただけです。比叡山と違って、静岡は暖かいけれど、そういう気持ちで始めようと。アーサー…白石さんの詩には、いろんなものがミックスサラダのように入っていて、中から一つ「栗」をいただきました。小さい景色をなるべく鮮明にとらえて渡したいと思いました。

信…ここまでの詩には、それぞれの個性がよく出ています。で、欠けているのは、普通の生活ではないかと。アーサーの「露」をもらって、小さな露の中にも普通の生活が映っている、ということと言いたかったんです。



大岡 信

おおおかまこと
東京大学文学部卒。学生時代に雑誌『現代文学』創刊。54年詩誌『権』に参加。連詩の提唱者、第一人者でもある。『折々のうた』で菊池寛賞、96年マケドニア・ストルーガ詩祭金冠賞受賞。海外の詩人たちの「連詩」創作に対して02年10月国際交流基金賞受賞。最近『大岡信全詩集』、詩集『旅みやげにしひがし』を発表。31年静岡県三島市生まれ。

一 わたしたちは習った ひらがなをカタカナを 漢字の骨格 その連なりをあれはどう書くんでしたっけ？

宙に 手のひらに 箸袋に 現れては手渡されてゆく 点と線 文字の 言葉の 輝き

二 谷川の流れに洗われる石の白さに心をとどめ岡の静もりにひかれてその上の大きな木へと坂をのぼる私たちの名にひそむ山川草木がよみがえる朝

三 五人の僧侶ならぬ詩人集い言の葉の道場で快楽にも似た修業

武蔵も小次郎も、いや芭蕉に其角、西鶴といくか、21世紀の虚栗の時代に宇宙にむかい、うたう怪鳥の、快調のリズムやいかに？

四 栗の木の根元に タベ 地蜘蛛が巣を新築した落ち栗の穂から穂へ 糸と刺が 同じ露をつかまえて

五 そこに映っている 夕映えの駅足早に急ぐ 勤め帰りの行列くたびれた仮面の下にくつろいだ本物の笑顔家で待つ一歳の子供に「高い高い」する二本の腕だけ大きく振って

六 ネジを巻く ギーコ ギーコ ギーコシンバルを叩く パチン カチン パチンやがてキョトンと お猿のしずけさ

七 「戸惑ったようにあなたは黙りこみでも私から目はそらさなかった短くて長いそのつかの間に遠い昔のあの日の波が打ち寄せてきた別れを覚悟したあの夏の日の」

涼

俊太郎

かずこ

アーサー

信

涼

俊太郎

白石かずこ

しらいかずこ
早稲田大学文学部卒。
『聖なる淫者の季節』で
H氏賞、『一般のカヌー、
未来へ戻る』で無限賞、
『砂族』で歴程賞、『現れ
るものたちをして』で高見
順賞・読売文学賞受賞。
20数カ国の詩祭に招かれ
朗読。98年紫綬褒
章受章。31年カナダ生
まれ。



谷川俊太郎

たにかわしゅんたろう
都立豊多摩高校卒。18
才で詩作を始め、19才
で『文学界』に『ネコ他5
編』発表。21才で第一
詩集『二十億光年の孤
独』刊行。詩の他にも
エッセイ、戯曲、脚本、
翻訳、絵本、作詞など
「ことば」を用いた幅広
いジャンルで活躍。31
年東京都生まれ。



なくしたものを、去ったものを、消えたものを。
高みの空から、浜辺の景色から。

【第十一編／第十五編の解説】

かずこ…前の詩の「行方不明」から。

人間は、悪く言えば、言葉に騙されるけれど、言葉と話さない動物には、第六感みたいなものが働いて、いい人かどうか、真実を感じとる力があるのね。

俊太郎…今、（創作中の）我々はホテルの25階にいて、目の前にフルーツがあり、食事ができる。すると自分たちが偉くなったと錯覚する。三行目の「見えるものの中に見えないものを探す」というのは、僕の詩論みたいなものですが。

涼…見える見えないを受けて、いるいないを書いてみよう。と。「いないかいるか」は、せつかく谷川さんから受けたので、そのまま（谷川作品『いるか』より）いただきました。

信…「死」からイメージした三行です。昔の辞世の句などは、短くて軽やかなものにするというのが決まりだったんじゃないかと思うんですね。後に残った人のために。

アサー…消えるものからの連想で、「波」という消えるものに一日中、命名しているお爺さんというキャラクターを作ってみました。波の表情をすくい取って、ひらがなカタカナを駆使して、名前を付けてお爺さんがいたら面白いなあ。（笑）

八 草むらでフットボール選手がけりあげた
ボールは空にあがったままおりてこなかった
あれは星になったのでは

九 家の前のハミングバード・ロード

デコボコの悪路から 或る週を境に アスファルトに
家族 メールマン 近所一同 喜んで
だが 立ち退きに遭った水溜まりたち
あの中の空の居場所

十 農業撤布で人間のお米は増産

源五郎も田舎も窒息
愛すべき目高の居所も不明

十一 いくら電話しても通じない

Eメールもとどかないのにどこにいるのかわかる
死も生も。

第六感で運命を、真実を感じとる人間の超能力、
その遺伝子はいまだ言葉をもたぬ鳥たち、けものたちのもの

十二 翼もないのにこんな高みにいる私たち

ハヤブサの眼の鋭さにあこがれながら
見えるものの中に見えないものを探す

十三 トントントン

いないかいるか
死んでもう五年になるダウンピアを訪ねる
フランス訛りの彼の英語

私の胸にしまっている声が 動きだす

十四 辞世の歌や句 短いから

軽やかなものこそ好かれる
生き残る者らに苦痛の澱みを残さぬために

十五 いつも浜辺に立っているお爺さん

釣竿を握って でもそれよりも 余念なく
波を名付けている ほら 今やってきたのは
「さざじろつ」 妹の「ブクちゃん」 少し斜めの「ウォルター」
喜んで 中にはお爺さんの足をなめて 帰る波も

十六 釣り舟に墜ちるように飛びこんできた

なぜどうしてかはわからない瀕死のインコ
運命のフシギその日以来、愛のわが家の息子

かずこ

アサー

信

かずこ

俊太郎

涼

信

アサー

かずこ

アーサー・ビナード

Arthur Binard
20才でヨーロッパに渡り、イタリア語習得。コルゲート大学英米文学部卒。卒論で表意文字に会い来日。日本語での詩作、翻訳を始める。詩集『釣り上げでは』で第6回中原中也賞受賞。詩集のほか、絵本、訳書など著書多数。67年アメリカ・ミシガン州生まれ。



木坂 涼

きさかりよう
和光大学人文学部卒。詩集『ツツツと』で現代詩花椿賞、『金色の網』で芸術選奨文部大臣新人賞受賞。ほかに詩集『南南東』『小さな表札』『5つのエラーをさがせ!』など。ほかにエッセイ、翻訳絵本など著書多数。58年埼玉県生まれ。



季節の変わり目の風景に心をうつして。
メールの上の、川の下での、シアワセ。

【第1千編〜第1千四編の解説】

アーサー…前の「すばらしい枝ぶり」と「生け花教室」の切つて生ける様子から、植物ではない世界に。裸木を見ていると人間にも見えるし。植物が教えてくれる季節と、デパートの中の季節はズレていますよね。

俊太郎…アーサーが「谷川さんのためにヌード出しておきました」と言っただけ、マネキンじゃ何も面白くない。(笑)前の詩の「デパート」のバイトの子が、狭苦しいデパートに帰っていく様子を書きました。

信…狭苦しいデパートといえば、歌にもあるように「神田川」でしょう。東京にはいろんな川が流れているけれど、神田川というのは結構重要な場所を流れているんですよ。でも、ほとんどは「コンクリートの蓋の下」だけ。

かずこ…「よお」という前の語り口が可愛いから、ここで遊ぼうと、お酒や音楽を出しました。大人の遊びですね。

涼…大人の音楽から、子どもの音楽に視点をうつしました。これは私自身のこと、ピアノの練習をさぼったことへの言い訳に、同じ言い訳を使っていた自分が懐かしくもありますね。

十七

どこの生まれかと問われて道でと答えた女がいた
問うた女は水中出産で生まれたそうなの
トンモロコシ畑でボンと産まれちまった男もいた
その母は億万長者のひとり娘で当時ヒッピー
いずれ劣らぬ無原罪の御宿り

十八

花の命は 今どのあたり？
注がれた湯の中に ジャスミンの花がひらく
ガラス・マグの縁を遊覧中 やさしい息に吹かれて

十九

すばらしい枝ぶりだが 千年前の
高山に生えていた メタセコイヤだ
日本名はアケボノスギ
こわこわ生け花教室で使ってみると
生徒らの目に曙の光がさした

二十

デパートの通用口で トラックに
マネキンの手足と胴体が積まれてゆく
空調完備の中の 季節の変わり目

二十一

携帯のメールチェックしながら歩いてゆく夜道
子どもっぽいほえみが浮かぶ
梅おにぎりや鮭おにぎりとミネラル買つて
1Kの扉を開けて立つたまま返信
「オレシアワセ」

二十二

神田川はおかたコンクリートの蓋の下
泳いでいる鯉は都市のたからもの
よお ついででいいからアザラシもあがっておいで

二十三

ここらで菊姫の濁りは いかが？
小松まで雪にまみれて訪れた姫の里
ジャズボーカル朝まで歌う姫もいた
ピアノが泣き、トランペットが叫び
あれッ、酔いつぶれ 高いびきなのは誰？

二十四

火曜日はピアノのレッスン
ランドセルを背負う子は “突き指” を思いつく
ピンポン、先生の顔が現れる

二十五

九合目を過ぎたあたりで
バックバックの重みが腰から踵へ
砂埃の中へ消えた
登山道の脇のロープに掴まり
しばらく吹かれる

俊太郎

涼

信

アーサー

俊太郎

信

かずこ

涼

アーサー

谷川賢作

たにかわけんさく
作・編曲家、ピアノ奏者、
ラジオドラマ、舞台音楽
の作・編曲を手掛ける。
映画『鹿鳴館』以来、ほ
とんどの市川崑監督作
品で音楽を担当。88、
95、97年日本アカデ
ミー賞優秀音楽賞受賞、
95年アジア太平洋映画
祭最優秀音楽賞受賞。
60年東京都生まれ。



谷川賢作氏は、完成し
た連詩からインスピレ
ーションを得て、音楽を創
作。発表会の席で、氏
のピアノにより披露。会
場を湧かせた。白石氏・
第三編に寄せたジャズ
曲「FIVE MONKS IN
PARADISE」(天国の五
人の僧侶) 大岡氏・
第二十七編に寄せたブ
ルース曲「itQsun」(一
休さん)など。



風狂の人、一休さんのもう一つの傑作。
やがて慎ましく、昼と夜が入れ替わる。

【第二十六編、第三十編の解説】

俊太郎…涼さんに「谷川さんの詩は五
行でも十行分ほどあつて、重くて受け
にくい」と言われたので、どうだ、とば
かりに書いたものです。(笑)アサー
の詩に「吹かれる」とあったので「風」で
受けました。吐息も小さな風だし、
風の噂とか。風狂、詩風などともいい
ますし。

信…巨匠のお遊びは、受けるのが大変
だね。(笑)「狂」から風狂の人の話へ。
一休さんの号は「狂雲」というんです。
頓知だけでなく、成熟した一休さんは
猥褻な漢詩も書いていて、猥褻だけど
清らかな、とてもいい詩を書いています。
かずこ…「淫」から「隠」へ。隠と思わ
れるものには、セイントな(聖なる)も
のでもあるんですね。

涼…ここで大岡宗匠が「爽やかな方
へ」とおっしゃったんですね。この二十
九番目の詩を書く頃、ちょうど夕刻
だったんですけれど、私はその時間帯
が好きなので、素直に書きました。
アサー…このあたりで日が暮れて、
ミシガンで昔ときどきやったミミズ狩
りを想い出したんです。初めは「ぬめ
ぬめ」という言葉はなかったんですけ
ど、大岡さんがミミズらしさが出る
とおっしゃったので加えました。

二十六

風 吐息の 屁の
噂の 世間の 狂の
詩の 風

二十七

この人の名のもと 数々の頓智はなしが
こどものよみものをにぎわせた
一休さん 狂雲禅師 盲目の
女性を吸い 愛撫する詩は
本邦稀なる閨房の淫詩の傑作

二十八

隠者は現れ夜には月の女神
昼には太陽神に逢い、
両性を愛するものこそ聖りへの道という

二十九

夕刻の 昼と夜が入れ替わる時間帯が好きだ
鳥たちは色を落として帰へ帰る
八百屋の灯の下で 大根はより白く
月はほっそりと 慎ましい
夜になってしまふまでの このアダージョ

三十

キャンプ場で 夜更けの大ミミズ狩り
少年の左手に懐中電灯 右手はひとりでに
ぬめぬめ光るものにとびかかる

三十一

まだうら若かった母といっしょに
初夏の田んぼでホタルをどつきり
なまぐさい臭いにぼくの手はブンと染まり
大収穫に鼻たかだか
心配していたトウちゃんにどやされるまで

三十二

鎌倉彫りの額縁の中のセピア色の親子三人
母は古稀を過ぎてから父を置いて南極へ行つた
父は母の留守に子犬を拾ってきた

三十三

雪解け道は
拾い物に富む
ボタンや鍵 小銭 錆びついたポケットナイフ
「あの世へは持つて行けない」
毎年 残雪が最後に教えてくれたこと

三十四

受けた手に 一目瞭然の5円玉ひとつ と レシート
「おつりをお確かめ下さい」
5円玉の穴まで?

俊太郎

信

かずこ

涼

アサー

信

俊太郎

アサー

涼



発表 グランシップ会議ホール・風



創作 ホテルセンチュリー静岡

終結に向かい、潔く連詩を投げ捨てる詩人。
光にはしゃぐ詩人。僧侶のように眺める詩人。

【第三十六編／第四十編の解説】

信…白石さんの「恐竜」を別の世界で受けとめて、人物にもつていきました。「菌類の養殖家」というのは、南方熊楠みたいなイメージですね。

俊太郎…ジオラマは二次元の世界でなく、立体的に作られるせいか、心に鮮明に残るようなところがありますね。これは小学生高学年ぐらいの一人称で、人生に対する思いを書いてみました。連詩を終結させていくために、このあたりで開かれていかなければ、思っただけです。

アイサー…ベナレスというのは北インドのヒンドゥ教の聖地で、駅にはチャイ屋さんが並んでいて、天日干しの粘土の器でチャイを飲むんです。普段、使い捨ては嫌いだけど、こういう使い捨てはいいなあと。で、そろそろ連詩も捨てる頃だと。(笑)

涼…アイサーが上から下へ投げつけたので、私は下から上へいく「噴水」に。ここまで夕方の光などはあったけれど、はしゃがんだり光はなかったもので明るい世界を書いてみました。

かずこ…木坂さんの詩から、すぐにイメージが湧いたの。光が反射するようね。前が爽やかでスピードのある詩だったので、精神統一をしまして。日常ではない、別の所から眺める詩で結びました。

三十五

レンズの向こうにみえるのは
億年前の恐竜群、あッ、歩きだして
地球の大地はゆれ、地震でも二日酔でもないのに
こんなにゆれるとは シーツの上でわたしたち
いつのまにか現代の小恐竜になっていた

三十六

浅草でジオラマに夢中だった明治の少年
一人は怪奇ロマンス映画の巨匠に
一人は神秘的菌類の養殖家となる

三十七

「めをつむるとどこまでもあるいていきます
はやしをぬけるとかわがながれていてかわをわたるとまちがあつて
まちのうしろにたかひやまがそびえていてそのむこうはうみ
わたしはわたしのこころのなかをたびしていきます
みちくさをくいながらころんだりしながらおとなになつても」

三十八

汽車がベナレスに止まると「チャイイ チャイイ」
窓越しに一杯をもらう 飲み干すと
周りを見習って 粘土の器を地面に投げつける

三十九

光は
噴水のでつぺんで はしゃぐ
水滴は スポットライトを浴びて 披露する
惜しみない回転 思い思いの捻り
空中合体の離れ技

四十

動の中の静 静の中の動
つかのまだが美しい 念じれば可哀い
人間たちの ひたむきに歩く姿

創作 二〇〇二年十一月十四日(木)起

同月十六日(土)満尾

於 ホテルセンチュリー静岡
参加者 詩人 木坂 涼
谷川俊太郎
白石かずこ
アイサー・ピナード
大岡 信
創作音楽 谷川賢作

発表 二〇〇二年十一月十七日(日)

於 グランシップ十一階会議ホール・風

かずこ

信

俊太郎

アイサー

涼

かずこ

寄席を楽しまよう。

寄席は日本の娯楽であり、そこには日本の美学がある。外交的にはたやすく“ノー”とは言えなくても、なかなかどうして。「はなす」ことにかけては、日本人はかなりウルサイ国民なのだ。



寄席文字は縁起文字。筆太で余白少なく書くことで空席のないように、客が大勢入るようにと縁起をかつく。

ある映画監督がこんなことを言っていた。アメリカでヒットした「メティ映画や人気のスタンドアップコメディを日本に持ってきて今一つウケない。それは日本人にアメリカの笑いがわからないのではなく、日本の笑いのレベルが高いからである。」と口をひいて出るから「咄」。耳新しくしゃべるから「噺」。どちらの漢字も日本で生まれたものである。外交的にはたやすく「ノー」とはいえない日本人だがなかなかどうして。昔から「はなす」ことにはちやうとつるやい国民であるらしい。

ともあれ、落語をはじめとする話芸は、寄席を中心に発達してきた。落語は「話す」、講談は「読む」、浪曲は「語る」といい、すなわち素はなしの落語、台本を読み聞かせる講談、三味線の伴奏に乗せて語る浪曲、という違いこそあれ、日本の話芸は日本独自の粹なる文化であると同時に、世界的に見てもこれほど洗練された「話」の芸術はないとさえいわれている。

また、江戸が武士の町であったことから、東京落語には武士が登場する噺が上方に比べて多く、反対に大阪が商人の町であつたために上方落語には商家の旦那や丁稚が数多く登場する、といった具合。そのほか「はめもの」と呼ばれる効果音、効果音の有無や舞台装置など少しずつ異なる。

という名前がある。

たことから、東京落語には武士が登場する噺が上方に比べて多く、反対に大阪が商人の町であつたために上方落語には商家の旦那や丁稚が数多く登場する、といった具合。そのほか「はめもの」と呼ばれる効果音、効果音の有無や舞台装置など少しずつ異なる。



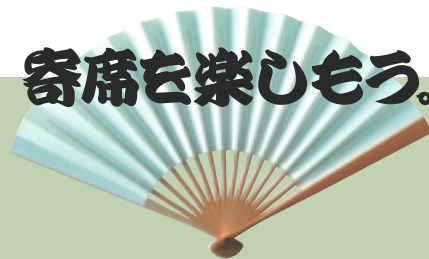
常に演じられている寄席を「定席」(じょうせき)という。江戸の頃は、そば屋やうなぎ屋の二階などで噺を披露していた。

が転化したのだという説など、いずれにしても江戸時代にはうまれたものであつたという確かなのは確か。

「寄席」という呼び名にはいろいろな説がある。人を「寄せ」たからという説や、昔は夜だけ演じられたから「夜席」

所変われば、八つぁん熊さんも変わる。
日本の話芸の粋は、寄席にあり。

寄席を楽しむ。



寄席は、太鼓ずドン！と縁起かつぎ。

寄席で打たれる太鼓は、歌舞伎や大相撲と同じ。大入りを祈願し、前座が打つのが通例。

一番太鼓

開場と同時に前座が鳴らす。

客を招き入れることから、「入れ込み太鼓」とも言う。

- 一、太鼓の縁をカラカラカラと叩く。木戸口をあける音を表す。
- 二、続いて”ドンドンドン”と来い、ドンドンドンと来い“と大きく叩く。
- 三、大入り祈願バチを「入」の字形にして太鼓の表面を押さえる。

二番太鼓

開演五分前に打つ太鼓。

別名「シャギリ」「着到（ちゃくとう）」。

- 一、一番太鼓よりも速く、”お多福来い来い、ステツク天天“と打つ。大太鼓、締太鼓、能管が加わり、賑やか。

ハネ太鼓

寄席の終演の際、客が去る様子を打つ。

「追い出し」とも言う。

- 一、”出て行け、デタイケ“から、家路につく様を表して”テンテンバラバラ、テンテンバラバラ“と打つ。
- 二、客が帰ると、”カラ（空）、カラ、カラ“と太鼓の縁を叩く。
- 三、木戸の鍵を下ろすように太鼓の縁をバチでこすってギーッと鳴らし、拍子木で締めくくる。

「マクラ」に始まり、「オチ」で終わる。オチにもいろいろあり、以下の他に逆さオチ、見立てオチ、はしごオチ、離れオチ、ぶっつけオチ、仕草オチ、地口オチなどがあり、なかにはオチのない噺も。

考えオチ

聞いた瞬間は判りにくい。後で「ああ、そうか」とおかしさが湧くもの。

とたんオチ

オチの一言で噺が引き締まり、完結するもの。名作噺に多いオチ。

仕込みオチ

オチを冒頭でさりげなく喋っておくもの。

間抜けオチ

脈絡なく馬鹿馬鹿しい言葉でオトすもの。落語家自身はこれが最高のオチという。

拍子オチ

調子よく畳み込んでオトすもの。東京では「とんとんオチ」と呼ぶ。

回りオチ

話の展開がぐるぐる変わり、最後にはじめに戻ってオチとなるもの。

オチがあるから「落語」。とは、これいかに。

寄席用語解説

【高座】 寄席の舞台のこと。寺院などで説教師がつく講座が、聴衆より高く設けられたことから。

【めぐり】 演者の名前を書いた舞台上の札。

【高座返し】 演者の交替の際、座布団をひっくり返し、羽織や湯呑みを片づけ、めぐりを返すまでをいう。前座の仕事の一つ。

【さう】 最初に高座に上る芸人のこと。大抵は前座で、さうくち、開口一番、三番叟とも呼ばれる。

【食いつき】 仲入り後すぐに出る芸人。客が休憩中に求めた弁当や菓子を食べているときに舞台上に上がることから。

【膝がわり】 トリのすぐ前に出る芸人。原則として色物の芸人で、真打の芸を引き立て、控えめに自分の芸を披露するのが原則。上方ではモタレと呼ぶ。

【色物】 落語以外の演芸。漫才、奇術、曲芸など。

【枕】 落語で本題に入る前の導入部。

「ちん、ハナが何か落どーてな」「あゝ」

「芸」とは一人一代のもの。他人が真似しても、それは別物。楽しむほうもその視点はそれぞれ。こちらも一人一代のものといえるかもしれない。

「色物」というのは、漫才や奇術、曲芸といった演芸のことで、寄席のチラシに落語は黒い文字、その他の演芸が赤や青の色文字で書かれたことから、そう呼ぶようになったという。



落語家の小道具といえば、扇子と手拭い。扇子は隠語で「かぜ」と呼び、刀、槍、弓、箸、筆、キセル、はさみ、お銚子などに見立て、一方、手拭いは隠語で「まんだら」といい、煙草入れ、帳面、財布、手紙などに表すときに用いる。

噺家が複数の人物を表現する際、せりふの部分で右を向いたり左を向いたりする。これを「上下」（かみしも）という。身分や立場に上下関係がある場合、舞台に向かって右から左に向けてしゃべったら、その人は立場が上の人。逆なら、力関係の弱い人を表している。

一語一会

心の空洞化を感じる今こそ、芝居を。



有馬 稲子（俳優）

10月13日、中ホール大地にて瀬戸内寂聴氏「源氏物語」を朗読

今回の『源氏物語』のように、いろんな方がいろんなカタチで源氏の世界を表現するというのは面白い企画だと思えますね。日本には器ばかりがどんどん造られていくけれど、続かないでしよつ。それは中身をきちんと考えてないからなんです。ただ、今日はマイクを使いましたが、最初のうち、生の声とスピーカーからの声がズレて、とても聴き取りにくかったのは非常に

残念でなりませんが、朗読ではあつてはならないことですからね。今回の反省をぜひ、今後に生かしていただきたいと思えます。私にとつて印象深い劇場といえますと、北海道の女満別町の町民会館でしたっか。小さいけれど、あたたかくて芝居がやりやすいんです。芝居は七、八〇〇人が限度ですが、多目的ホールというのは大概それより大きく、芝居がやりに

くいね。その点、この中ホールは、芝居には適度な大きさですから、どんどん芝居をやっていた方がいいですね。現代というのは誰もが心の空洞化を感じている時代でしょう。だからこそ、芝居を見るゆとり、心豊かになることが大切だと思ふんです。私が今、取り組んでいる朗読ミュージカルも、ぜひ、こちらでやっていたら面白いと思いますね。

第181回しずおか寄席

グランシップ

正月寄席

二〇〇三年一月十九日（日）

午後一時開場

午後二時三十分開演

グランシップ 中ホール・大地

チケット発売中

全席指定 三、〇〇〇円

主催／（財）静岡県文化財団
共催／しずおか寄席を育てる会
後援／静岡県

立山志の輔



たてかわしのすけ〈二席〉
明治大学卒業後、立川談志門下に入門。落語家としてはもちろん、レポーター、司会、講演にと多彩に活躍。古典落語から創作落語まで幅広くこなし、著書に「古典落語100席」「千字寄席」など。NHK総合「ためしてガッテン」でもおなじみ。今回の静岡公演では、二席で登場。昭和29年富山県生まれ。

春風亭鯉昇



しゅんぶうていりししょう
明治大学卒業後、八代目春風亭小柳枝に入門。その後、春風亭柳昇門下に移り、昭和55年二ツ目昇進で春風亭愛嬌に、平成二年真打昇進で春風亭鯉昇となる。現在、静岡第一テレビ「〇ごとX」レギュラー出演中。昭和28年静岡県浜松市生まれ。

あした順子・ひろし



あしたじゅんこ・ひろし
夫婦の組んで早40年。一見夫婦のようで、実は赤の他人。ひろし師匠のボケ、順子師匠のツッコミ。二人の間はまさに絶妙。フジテレビ系バラエティ番組「めっちゃイケ」にも出演するなど、今や若者にも話題沸騰。二人共に東京下町生まれ。

三遊亭小円歌



さんゆうていこえんか
昭和56年圓歌入門。芸名あす歌から、平成4年三遊亭小円歌に改名。寄席の色物としては戦後初、また女流三味線漫談家としては唯一の後継者。「かつほれ」などの寄席踊り、扇子を20本以上操る「松づくし」等も継承。東京浅草生まれ。

渡辺 香津美

生まれる音、瞬間の音楽。

「クラシックとはいえ、二度と同じには弾けない。これはやっぱり面白いですね。」

譜面に書かれて
いる音には、長さ
と高さはあるん
だけれど、それ
をいかに生き
物にするかとい
うのは、ジャズ
と同じ。

その場で瞬間
的に生まれてき
た音、イマジネ
ーションの中で
聞こえてきた音
をなるべく忠実
に楽器を通して
かまえて出して
いく、それだけ
なんです」

エレキの若大将。

「才能ある人は説得し、天才はもっぱら刺激する」と言ったのは、イギリスのある政治家だった。一方、肩書きの前に常に「天才」と冠されるギタリストが、日本のミュージックシーンを刺激し続けてきたことは紛れもない事実である。片時もギターを離さず、ギターを愛し、瞬間瞬間に生まれてくる音をつかまえようと感性を澄ます。発明王エジソンも言う。「天才とは1%の靈感と99%の汗である」と。この言葉にも、その天才の姿は重なる。

最初に手にされた楽器は、ギターではなかったそうですね。

「ええ、最初の楽器はオルガンでした。まだペダルに足が届かなかったような記憶があるので、小学校2年ぐらいだと思っていますが、ピアノに関しては、両親が音楽が好きだったということもあり、親に言われるがまま、6年生ぐらいまでレッスンしてました」

ギターはご自身の意志でお始めになったそうですが、60年代の終わりといえますと、ベンチャーズの時代ですね。

「ベンチャーズもそうだけど、映画で加山雄三さんの『エレキの若大将』を見ましてね。スボーツは万能だし、ギターも弾ける。で、その頃の僕はというと、そんなに運動が得意でもないし、引っ込み思案な性格だし。だけど、この楽器を弾くと、なんかスパーマンになれる。そんな感じがしたんですね」

ということは、まずエレキギターですか？

「エレキをやりましたけど、手に入らなくて。実は家が煙草屋で、副業として売っていた雑貨やガムに当時クーパー券がついていて、集めるとカタログから好きなものももらえるというシステムがあったんですね。で、その中にヤマハのギターがあったんです。弦はスチール弦で、クラシックギターのカタチをしているんだけど、とにかくそれをゲットして。ただ、どうしてもエレキっぽくしなかったで、近所のレコード屋さんでピックアップやピックガードを買ってサウンドホールにつけたりして。まあ、ある種のカスタムメイドですね(笑)」

ギターでいける、という確信は、早いう

ちからおありだったんですね。

「ただ、(ギターの)譜面が読めなかったんですよ。ピアノと違って、ギターは譜面と実際の場所がどうも結びつかない。耳で聞いたものは、音が探れるんだけどね。だから、知らない曲はとりあえずピアノで弾いてみて、その音をギターで弾いて、この音がこの位置かみたいなことを数年してましたね。中学の頃はとにかく一日中ギターを弾いていたような気がします。中学3年ぐらいになると、渡辺貞夫さんがちょうどアメリカから帰ってらして、日本にジャズが広がりはじめるんで



す。しかも当時、わりとオシャレなテレビ番組があつて、それに渡辺貞夫さんが毎週出ていたんですよ。それを毎回見ているうちに、ジャズはカッコいいぞと。ちょうど背伸びしたい頃でね。まわりはみんなロックをやっているけれど、俺はちよつと先を行かなきゃいけない、と思ったわけです(笑)」

デビューからずっと肩書きの前に「天才」という言葉が冠されていますが、それについて当時はどのように受けとめてらっしゃったんですか。

「うーん...どうだろう。16歳ぐらいからジャズギタリストの中牟礼貞則さんに就いていたん

ですけれどね。教室に通いながら、セッションというか、道場破りみたいなことをしてたら、「ゴイツは度胸がいい」と。それでスタジオに呼んでもらつてね。で、何かのときに「渡辺君、これ、弾いてもらんよ」といわれて。結局、それがレコーディングだったんですけど、それをきつかけにスタジオの仕事をしたり、ライヴハウスにも出るようになります、ついにレコーディューの話をいただいた。そんなとき、あべテランの方が「この子は若いから、コマースャルっぽいものでなく、好きなジャズをバリバリとやらせたらいいんじゃないか」と言つて

意志があり、音楽はある。

ここ数年は、とくにアコースティックギターの弾かれる機会が多いようです。

「そうですね。1990年代に入つて、あるとき、地方のギヤラーで完全にノンPAで弾いてみないかという話があつたんです。面白そうだと思う反面、結構悪いところもあつたんですけどね。いざ、やってみるといつもと違う自分の音が聞こえたり、発見があつて。そこからアコースティックで弾く、というのを始めたんです。するとね、身体がバラバラになるんじゃないかというぐらい大変なわけ。つまりエレキとアコースティックとは、身体にかかる負荷が違う。まず、ギターそのものが重いということ。そして、使う筋肉も違うし、姿勢も違う。それで肩をやられて、しばらく動けなくなつて。究極的にいえば、身体に無駄な力があるから、身体がキビしくなわけで、それをなくせばいいんだけど、そこに到達するまで結構あるんだよね」

昨年、三〇周年を迎えられたそうですが、三〇年の中でつかった、ご自身の「ギター道」みたいなものはおありなんですか。

「これは寺内タケシさんがおっしゃったことで、一つ真実だと思うんだけど、ギターは弾かなければ、音が出ない」と。それは何かと考えると、バイオリンや管楽器は音が出るまで相当かかる。けれど、ギターというのはボンと弾けば、音が出る。けれども、そこから先が長い。しかしながら、それでもな



静岡県沼津市では、青年会議所の依頼により、独自のプロデュースラインを提示。山下洋輔氏、筒井康隆氏らを招いての「ジャズ大名スーパーセッション&トーク」をはじめ、質の高いエンタテインメントを発信。「ミュージシャンシップで声をかけたからこそ、実現したんですね。逆に東京ではできなかったことですね」

【わたなべかずみ】

ギタリスト、作曲家、プロデューサー。高校に入り、中牟礼貞則に師事。その後、今田勝に認められライブスポット等に出演。71年アルバム・デビュー。天才ギタリストとして注目される。79年坂本龍一、矢野顕子、村上秀一らと伝説のオールスターバンド「KLYN BAND」を結成し、ミュージックシーンに衝撃を与える。同年イエローマジック・オーケストラのワールドツアーに参し、KAZUMIの名を世界的なものとする。80年アルバム「トチカ」で大ヒットを記録。ジャズ・フュージョン界でスーパーギタリストとして不動の地位を築く。84年第18回ジャズ・ディスク大賞(日本ジャズ賞)、91年南里文雄賞受賞ほか受賞歴多数。ジャズ誌「スウィングジャーナル」のジャズメン人気投票で24年間連続ボールウィナーをキープ。エッセイストとしても活躍。53年東京都生まれ。

お、そこに到達するためには、やはり最初の一音がなければ始まらない。そういうことだと思うんですね。結局、自分の意志があつて、音楽はある。自分が弾かなければ、音楽は生まれないと。当たり前のことだけど、長くやっている、そういうことを忘れてしまふんですね。初心に帰ること、初心の音を大事にしたいというのはありますね」

ときにはクラシックの領域でもお名前を見ることがありますが、きつちりとした構成・テクニクを基にしたクラシックと、インプロビゼーション（即興）のセンスが問われるジャズとでは、その向き合い方に違いがあるのではないのでしょうか。

「たぶんノーテーションされている部分は自分の好きには変えられない、というのがクラシックミュージシャンにはあると思うんです。それは確かにそうなんだけど、たとえばドミソと書かれたものを同じように弾いても、その奥にあるものが違わなければつまらないわけでしょう。だから、自分がインプロビゼーションで培ってきた音に対する考え方として、僕だけのものがあるとするなら、それを書かれたものにぶつけて弾いてみる、というのはあるんですね。で、やつてみるとね。クラシックとはいえ、二度と同じには弾けないんだなと。これはやっぱり面白いですね。譜面に書かれている音には、長さや高さはあるんだけど、それをいかに生き物にしていけるかというの、ジャズと同じなんです。ミュージシャンにもそれぞれ得意不得意があつて、ボクは真っ黒に書かれた譜面通りに再現するのは得意ではないけれど、その場で瞬間的

に生まれてきた音をつかんでいくことにはたぶん向いているんじゃないかと思うんです。自分のイメージ・インスピレーションの中で聞こえてきた音になるべく忠実に楽器を通してつかまえて出していく。それだけなんですけど」

2月には、いよいよグランシップでクラシックギタリスト鈴木大介さんと共演ですね。

「彼はジャズギタリストはこうあるべき、クラシックギタリストはこうあるべき、の“べき”の部分を“べきべき”と剥がして（笑）、とにかくやりましようという、そういうギタリストだね。背負っていないから何でもできた、ジャズ・フュージョンをやりたい頃の自分と重なるものがあるんですね。彼の演奏を初めて聴いたとき、それまでのクラシックギタリストとは違う、音がビジュアルに見える世界を感じて、あつ、新世代の人間だと思いたね。それでもいろんなものに悩む若者の感性が満ちている、そんな感じでした。すごくチャレンジ精神があつて、毎回いろんなアイデアをぶつけてくれるから、一緒にやっていると面白。たぶん今度の（グランシップの）ライブは、これまで以上にエンタテインメント性のあるものになるんじゃないかな。僕ら二人による、とても上質なギター・漫才というか、音の漫談というか。それをアートの高める作業ができたらいなと思つています。日本は案外そういうことに欠けていて、まだまだ拝聴するという感じがしよう。ものすごくカッコリしたことをやっているんだけど、それをもっとエンジョイできるように聴かせたい。要するにもっとお客さんの近くにいききたい、そういう思いがありますね」



2月のグランシップ・ジャズライブで共演の鈴木大介氏と。「僕は香津美さんがデビューした年に生まれているんです。香津美さんとのライブは、まさに至福の極み。こちらが好き勝手に弾いても喜んで合わせてくれる。何をやっても目を細めてよしよしと受けとめてくれる、みたいなところがあつて。ただ、だんだんクラシックがうまくなっちゃって困るんですね。（笑）向こうも同じようなことを思っているかもしれないけれど」（鈴木氏談）

12/22(日)チケット発売

2/28(金)

JAZZ LIVE XVI

渡辺香津美 & 鈴木大介

ギターデュオライブ

PM6:00開場 PM7:00開演

グランシップ 会議ホール・風

全席自由 4,800円（1ドリンク付・税込）